

KAS

風の谷 びゅう VIEW

社会福祉法人 風の谷
相模原市中央区田名7236-3
発行責任者 政野 光廣
042-760-1033
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>
e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp



2012年 新春号

特集『受注作業における
各班の連携と作業設定』



【2012年 新春号】

◇巻頭文	P 2	◇自閉症支援センター便り	P 3
◇自閉症について	P 4・5	◇ケアホーム便り・ヘルパー便り	P 6
◇研修報告	P 7	◇後援会	P 8

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲 910-1 コープ野村 6-109
毎月15日発行 購読料1部 50円

年頭雑感

社会福祉法人 風の谷 理事長 政野光廣

新年あけましてましておめでとうございます。

今年は、相手を思いやる人としての絆の大切さ、また、自然を含め人々が共に生きることの誓いを新たにしている年のスタートとなりました。

昨年3月11日の東日本大震災は未曾有の被害をもたらし、多くの尊い人命が奪われ、故郷や生活の場を失いました。さらには東京電力福島第一発電所の事故による放射能汚染は衣食住とあらゆる場面で影響を及ぼしております。

被災された方々の心の痛みと、これからの生活の困難、大変さに思いを馳せる時、全ての人達が自分には何ができるのだろうかと自らに問いかけた事と思います。

震災直後には法人からも職員が現地へと出向き、関連者と共に避難所などでの専門スタッフとして支援に参画いたしました。

この様な中で、自閉症の息子さんを施設に通わせ、ご自身もケア施設の設立に法人理事として奔走している被災地の知人にお話を伺う機会がありました。被災地での自閉症者にとって、最も苦勞していることは、一人ひとりの安定した生活のリズムを取り戻すことだそうです。避難所での周りへの配慮や対応の困難から、車を自宅替わりにして過ごした家族の話や、集団行動や状況把握が不得手な為に避難所での生活の困難を極めたなどの話もありましたが、時が経つなかで、場所や関わる人、生活空間の違いなど、以前と大きく異なった生活リズムに途惑い、適応できずに家から出られない人、不適応行動が目立つ自閉症者も見られ、一人ひとりにあった、生活リズムの獲得が急務であるとお話でした。

この震災を契機として、障がい者などへの災害時、緊急時へ防災対策は各地域でそれぞれの要介護状態に合わせて検討されており、相模原市でも自閉症児・者親の会でも他の団体と共に防災に関する要望事項の提出などが着実に推進されております。

法人としましても、利用者の一人ひとり状況を踏まえた、災害緊急対応プログラムの策定や、地域の皆様との日常の交流などを通して、緊急時の理解と支援協力をお願いを推進していきます。

今年もやります！

地域交流バザー

2012年6月3日(日) 10:00~14:00

会場：やまびこ工房

お待ちしております！！



「相模原自閉症支援センター便り」

新年明けましておめでとうございます。毎年毎年、このように新年のご挨拶をさせていただけていることに感謝します。

さて、今年に入って「発達障害に苦しむ大人増える」という記事が YAHOO トップページのニュースに表示されている時間帯があったのをご存知でしょうか？ちょうど成人の日の後だったので、そんなことも関係しているのかもしれませんが、それだけ、現代社会において関心の高い話題なのだと私自身も再認識しました。

10 数年前に私が自閉症支援の世界に飛び込んだときには、まだまだ、自閉症そのものが世間に知られていませんでした。(私自身はまったく知りませんでした。)

それが今では、ご近所の井戸端会議の話題にも上るようになってきた様子です。内容に正確性があるかどうかはこれからの課題だとは思いますが良い流れなのだと思います。これはもちろん、インターネット環境等の普及によって、情報が容易に収集できるようになったことが大きいのだと思いますが、当事者、親御さんたちの啓蒙の賜物だと思います。

しかし、この手の記事や話題を目にしたときに違和感もおぼえます。それは記事の中身というよりも、“大人”“増える”という単語がよく装飾されているからです。

それでは、なぜそのような装飾がされるのでしょうか？もちろん ASD(自閉症スペクトラム障害)は、脳の器質的な障害で生まれもつてのものです。ですから、大人になってから降って湧いたように出てくるものではありません。

ただし、記事の中に「発達障害に気づかない大人たち」シリーズの著者である福島学院大学の星野先生の言葉として「私のクリニックに来る患者さんは二次障害が深刻な状態。復帰するのは容易ではない」とあったように、障害として現実社会に現れるのが大人になってからということになるのだと思います。

杉山登志郎先生の“発達凸凹”でも言われていましたが、やはり、ASD は認知や情報処理等の特徴であって、そのものが障害では決してないということだと思います。けれど、現実には無理解や不適切な対応が二次的な障害を生み、改善されないままに時間だけが過ぎていくこともあるようです。

相模原自閉症支援センターでは相模原市の「発達障害者日中活動支援プログラム研究事業」の委託を受け、自閉症に合わせた働く場所を提供することで、一人一人の役割や価値を確認していく支援を細々とですがスタートさせました。まだ、出会えた人たちは少数ですが、もっと多くの人たちと出会っていきたいと思います。

私は生まれも育ちも相模原で、高校を卒業するまで一歩も相模原を出ることはありませんでした。それが、卒業後の進路から一気に東北地方との縁が深まり、東北地方を勝手に第二のふるさととと思っています。そんな第二のふるさとが今年のあの震災、原発事故に見舞われました。そんなときに、ふるさとから「連絡をくれてありがとう」といつてくれた友人、震災ボランティアを通じて「ありがとう」といつてくれた子どもたちがいました。また今年の相模原やまびこ会の作品展では、やまびこ工房利用者さんのご家族と恩師の先生との力強い握手をみました。

ご存知の方も多いと思いますが今年の漢字一文字は「絆」でした。私自身、昨年は一つ一つは小さいけれど、大きな絆を感じることに出来た一年になりました。今までは支援者という意味で、支えることを意識してきましたが、今年は支えられているという感謝の気持ちを意識していき、さらに支援者として成長していきたいと思っています。

今年もどうぞご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。(西村)

自閉症について ～受注作業における各班の連携と作業設定

受注作業を中心に取り組んできたやまびこ工房の工場チーム。
…とはいえ、今までなかなか継続的に受注作業に取り組めずにいましたが、今年度から取引先を1社増やし、現在は毎日納品に追われるほど途切れることなく受注作業に取り組んでいます。

他グループの利用者さんとの連携もあり、なんと作業量も作業工賃も前年度の2倍以上に増加！
取引先の希望する作業量や納期があるため、あわただしさは勿論ありますが、毎日充実した作業環境がそこにはあります。ただ、この状態に至るまでには、出来ない諦めるのではなく「利用者の皆さんが、より取り組みやすくなる様に」と試行錯誤してきた作業設定がそこにはあり…。

そこで今回は、自閉症者の支援にあたるやまびこ工房ならではの作業設定をご紹介します。

D グループ

片面だけ織り込む箱折り作業。箱の向きを揃えておくことで、片面だけ折ることが出来ています。
最初は、職員が折り癖をつけて10枚からスタートした作業ですが、今では折り癖をつけずに80枚以上組み立てることが出来るようになりました！！



C グループ

どうしても出来上がった作業を投げ入れてしまう為、揃えて収納する方法を「縦4個、横7個」という指示書と見本を提示する形で伝達。
結果、投げ入れることがなくなり、丁寧に作業に取り組むことが出来るようになりました。



B グループ

2種類の飴を5本ずつ向きをそろえて袋に入れる作業。
なかなか向きが揃えられず、原寸大の写真カードを使用した補助具を設置。
口頭では伝えずに、様子を見ていたら自然と向きをそろえて入れることが出来るようになりました。

確認するようになったことで、作業の丁寧さがアップ！



G グループ

相模原市の「発達障害者日中活動支援プログラム研究事業」を受け、今年度の4月に開設された部屋で、仕事を中心とした日中活動の場を提供しています。現在男性2名が利用中です。

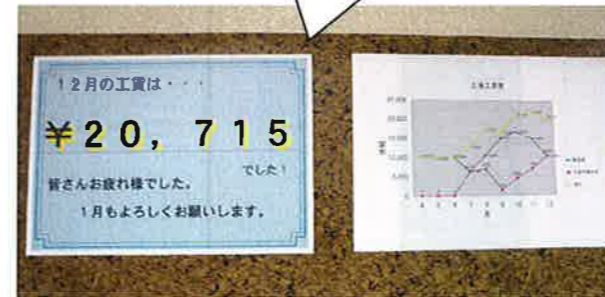


自閉症は動機の障害と言われることもあります。目標や達成状況を視覚的に明瞭化することで、やるべき量や動機づけの工夫をしています。

それぞれの作業の最高記録を提示しています。ご本人も作業量を気にかけてながら、記録を更新しようと作業に打ち込む動機へと繋がっています。



毎月の工賃と推移を提示。
具体的に数値で表すことで、「頑張った！」「来月はもっと！」と、利用者だけでなく、スタッフのモチベーションの維持と増進に繋がっています。
「みんな来月も頑張ろう！！」



チョコをトレーに4枚ずつ入れる作業。
目でわかるように1枚ずつ入れる補助具を使用しています。
仕事によっては個数の指定が変動する為、その都度対応できるよう工夫。
開始当初は、偶数指定のお仕事で2枚ずつ入れていましたが、奇数指定のお仕事に対応できず、2枚ずつ入れられないような間隔に変更…等、ここに至るまで様々な工夫が繰り返されました。



チョコを入れたトレーを箱に入れていきます。見通しがつくように、10個出来たらチェック。「10個」がわかるように補助具を使用しています。

完成した作業は、ワゴン車をいっぱいにしてほぼ毎日納品に行っています。工賃2倍…とは言え、その金額はまだまだ微々たるもの。
皆さんの力を引き出して、より充実した作業環境を提供できる様、日々QWLの向上に努めていきたい
と思います。

FIGHT!!



ヘルパー便り 其の参

先日、いつもコーディネートさせて頂いている A さんの外出に付き添わせていただきました。Aさんは日付、数字への関心が強く、毎年同じ頃に同じ内容の活動を希望されます。私はAさんの言われる通りの内容で計画を立て、ヘルパーの手配をして、それをAさんにお伝えしています。

今回はその確認表のヘルパー名の欄に私の名前を入れてお渡ししたところ、普段ヘルパーとして行かないせいか、一度「野田さん?」と確認されるように言われていました。それでもすぐに確認欄に〇を書かれ、了承を得ることができました。



Aさんが何度も行かれているカラオケ店、ファミレス、いつも乗られている電車、いつも通られる道…これまでヘルパーの報告と私の想像で知っていたAさんの活動は、満面の笑顔と鼻歌のような独り言で、これまで白黒印刷だったイメージが一挙に華やかになったように感じられました。歩くペースが速いこと、コンビニでいつも通りの商品を買うときに他の棚も確認され商品の数を数えたり、雑誌をパラパラとめくられたり、実際に付き添わせて頂くことで予定表に書いてある活動そのもの間にある行動パターンが確認できました。

そして何よりも、これまでの活動の中でヘルパーが当たり前に行うようになっていたパターンのカラオケ開始時に終了時間の約束をすることを私が行わなかったため、「時計」と時間を確認された後、予定の曲を入れて、消してと急いで終了の準備をされる場面がありました。Aさんには申し訳ないことをしました。こういったヘルパーの中では当たりの対応が報告書や活動後の確認では見えない場合もあることも分かりました。

今後もAさんの趣味に合った活動を設定できるように、今回見ることができた予定の間にある活動も想定しながら、より充実した時間を提供できるコーディネートをしていきたいと思います。(野田)

ケアホームナウシカ便り 其の参

前回はケアホームナウシカでお手伝いをして下さっている方の紹介でしたが、今回は別の方の日常の楽しみを紹介したいと思います。

アイドルグループ COCO が好きな三浦さん(仮名)はとても音楽好きな方です。毎週水曜日にカラオケに行くのですが、前日の火曜日には予習の為かビデオで録画した音楽番組を見ています。翌日が待ち切れずカラオケで歌う曲を選んでいくようです。近頃のお気に入りにはアニメ北斗の拳の主題歌「愛をとりもどせ」のようで、カラオケのない日でもよく「愛をとりもどせ」を唄うほど気に入っています。

ビデオ以外にもナウシカには彼の大好きなミュージシャンの CD や MD が置かれています。リビングにおいてある CD コンポからは彼のその時の気分に合わせて陽気で楽しいポップナンバーや、激しいロックが流れます。彼は曲が流れている間リズムに合わせて身体を揺らして聴き入っています。まるでライブ会場にいる様にリズムに身をゆだねています。音楽が大好きな彼にとってはこの瞬間が何にもまして格別なのだと思います。(田辺)



医療研修報告 「一地域生活と医療一相模原市の障がい児・者の現状」

去る平成23年12月6日に、松が丘園で行われた相模原市障がい福祉事業所協会主催の医療研修会に参加し、南区にある武井小児科医院の武井研二講師より、「一地域生活と医療一相模原市の障がい児・者の現状」という興味深いテーマで、現場に即した有意義なお話を伺うことができました。以下はその報告です。

～障がい児・者をとりまく問題～

障がいの有無に関わらず、「家族と一緒にいつまでも」過ごすことは理想的なことです。障がい児・者をとりまく問題として、障がい児・者の人数の増加や、在宅障がい児・者の高齢化に伴い、医療的ケアをより必要とする重度化が進行していること、そして、栄養摂取の状況として経管等による経口以外の摂取割合が増加している状況がまずあげられました。

また、ひきこもりや知的障がい者を抱える家族は、その見えにくい障がい故に偏見や差別を受けることも多く、孤立してしまう現状があるということ武井先生は過去の実体験からお話し下さり、深刻な問題として受け止めました。

では「理想の支援とは」何か？ということ、先生が現在関わっている地域医療の現場の事例を参考に検討していきました。それぞれ抱える障がいの状態、そして家族構成が違い、また地域性も異なる中、各家庭が悩みながら少しでもベストに近い地域生活を送るためのサービスの選択を模索されています。その方たちがいかにケースワーカー、ソーシャルワーカー、医師、看護師、そして施設の職員等と上手く連携を取りながら、ナチュラルサポートも含めた地域の支援を利用していくことができるかを、支援者は皆それぞれの立場で考えていかなければなりません。

～福祉施設と医療機関との連携～

さて、日々の利用者さんたちの生活に深く関わる立場の私たちにとって、医療機関との連携は重要な課題です。特に支援者が緊急時に利用者さんと医療受診をする際には、すみやかな受診につなげるために、情報不足による誤解を最小限にする必要があり、伝えるべき情報（本来の診断、合併症、特性等）が正確に伝達できるように、日頃から緊急時を想定したシミュレーションを行うことが大事だということでした。

実際、やまびこ工房でも緊急の通院や救急車対応をすることはあります。その際、利用者さんの情報を迅速かつ正確に伝えるために、服薬の状況や病歴をまとめた医療カードを利用していますが、より正確に、細かなニュアンスまでも伝えるためには動画画面で記録を残しておくことも重要だということをお教えされました。

一方で、障がい児・者に対する医師の無理解からの誤った認識も残念ながらあるようで、少しでもその偏見がなくなるようにと、先生は、北里大学病院の研修医に、重度の障がいをもった人々の療育に接する機会を持つプログラムが組み込まれた地域保健医療研修を受けることを進めているとのことでした。現在、この研修を受けた医師の方々が医療の現場で活躍され始め、救急の現場で支援に携わって下さっているという心強いお話も聞くことができました。

～今後の展望と感想～

最後の時間は、研修会に参加している人たちが日頃それぞれの立場で直面している医療的問題を、皆で共有し、やまびこ工房周辺で障がいに対して理解のある医師がいる救急対応病院の情報なども得ることができました。

また、支援者や介護者が定期的に健康診断を受けて自らの健康管理をきちんとすることの重要性も、先生は指摘されました。ある日突然のけがや病気でこれまで当事者に対してできていたケアや支援ができなくなることは、できるだけ避けなければなりません。日々の暮らしをより安心なものにするために、利用者さんたちにとってはもちろんのこと、私たち支援者にとっても地域の気軽に相談・受診できる医院や医師の存在は、大きな安心につながるということに気づきました。

また武井先生は、医師の立場より、障がいのある方と、その家族が社会から孤立しないような地域生活支援システムを構築しようと模索して下さっています。地域支援を遂行するにあたり、「当事者本人の意向を第一に考え」、「個人の尊厳が維持できるような地域支援」を、これからも医療、福祉、学校、行政などの様々な関係機関が連携をとりながら行っていかなければと思います。

(山田)

後援会のページ

新年明けましておめでとうございます。風の谷後援会の皆様・やまびこ工房家族会の皆様・職員の皆様、年の始まりはいかがだったでしょうか？

去年は、大変な一年でありました。まだまだ被災地の復興はままならない状況ですが、今年はぜひともより良い年になっていただきたいと思います。

今年の幕開けはなんと言っても箱根駅伝でしょう。柏原選手がまたまたの区間新、そして、東洋大学の圧倒的快挙！！ 只々驚くばかりでした。来年はまた新しいスターが誕生するのでしょうか。

さて、関心は先頃改造された野田内閣です。もちろん一向に進まない被災地の復興・復旧が一番でしょう。でも、遅々として進まない「障がい者総合福祉法」(仮称)の進捗促進も是非ともお願いしたいものです。

私事ですが、やまびこ工房にお世話になっております「我が次男」も、昨年12月の誕生日でついに三十路となりました。親としてはどうしても5年後・10年後を考えてしまいます。

今日からは『赤い屋根』への短期入所(1/16～)です。大きなカバンにいっぱい着替えを入れ、ご機嫌で出掛けました。

最後になりますが、皆様の今後のご活躍とご健勝をお祈りいたします。

今後とも後援会へのご協力をよろしくお願いいたします。

風の谷後援会会長 佐藤 辰男



【更新・個人】平成23年10月1日～平成24年1月12日(敬称略)

(相模原市内)

菊間政好 小林義明 高林清 野崎廣子 古橋須美 柳場秀雄

(その他の地域)

有路富夫 鶴田佳子(海老名市) 藤野喜友(厚木市) 中屋敷剛 村井伸芽(川崎市)
奥平瑞恵(伊勢原市) 清水洋子 内藤美也子(横浜市) 上城功(八王子市) 才田孝徳(松戸市)
江澤恵(さいたま市) 川野敏雄(苫小牧市) 上城和子(北九州市) 源新和子 宮手敏雄(盛岡市)

【ご寄付・ご協力】

新宿自治会 新宿小学校 (有)伸和トラスト ボランティアサークルのぞみ 依知の会
ワーカーズコープ・キュービック 他大勢のみなさまありがとうございました。

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

お問い合わせ先

〒252-0244 『風の谷後援会』事務局

相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内 TEL: 042-760-1033 FAX: 042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345